- 回日本ウイルス学会学術集会、岡山、2008 年 10 月
- 36) 牧角啓一、来海和彦、深田勝彦、西村知裕、 工藤康宏、後藤修郎、小田切孝人、田代眞 人、城野洋一郎: ワクチン製造用無血清培 地浮遊培養 MDCK 細胞におけるインフル エンザウイルスの増殖性および性状解析 第56回日本ウイルス学会学術集会、岡山、 2008年10月
- 37) 岸田典子、影山 努、白倉雅之、今井正樹、 中村雅子、石崎 徹、山岡政興、押部智宏、 稲元哲朗、島津幸枝、千々和勝巳、小田切 孝人:国内に飛来する野生水禽が保有する 鳥インフルエンザウイルスの調査 第 56 回日本ウイルス学会学術集会、岡山、2008 年 10 月
- 38) 氏家 誠、小渕正次、影山 努、白倉雅之、 岸田典子、島袋梢、望月菊、堀川博司、加藤裕美子、山田隆一、藤田信之、田代眞人、 小田切孝人:2007/08 シーズンに分離された H275y マーカーを持つインフルエンザウイルス A/H1N1 オセルタミビル耐性株の国内発生状況 第代 56 回日本ウイルス学会学術集会 岡山、2008 年 10 月
- 39) 岡松正敏、迫田義博、田中智久、津田祥美、 磯田典和、中山絵里、苫米地大輔、松野啓 太、梅村孝司、高田礼人、<u>喜田 宏</u>:2008 年北海道で発見された斃死オオハクチョ ウから分離したH5N1高病原性鳥インフ ルエンザウイルスの性状 第56回日本ウ イルス学会学術集会(2008年、岡山)
- 40) 梶原将大、曽田公輔、岡松正敏、迫田義博、 <u>喜田 宏</u>: インフルエンザウイルスのカモ に対する病原性の分子基盤の解析 第56 回日本ウイルス学会学術集会 (2008年、岡 山)
- 41) 曽田公輔、浅倉真吾、岡松正敏、迫田義博、 <u>喜田 宏</u>:鳥インフルエンザウイルスの病 原性獲得メカニズムの解析 第56回日本 ウイルス学会学術集会(2008年、岡山)
- 42) 迫田義博、Rashid Manzoor、野村直樹、 津田祥美、岡松正敏、尾崎弘一、喜田 宏

- 高病原性鳥インフルエンザウイルス Ck/Yamaguchi/7/04 (H5N1)のブタに おける増殖能獲得の分子基盤 第56回 日本ウイルス学会学術集会 (2008年、岡山)
- 43) 長谷川秀樹、一戸猛志、網 康至、永田典代、田村慎一、小田切孝人、田代眞人、倉田 毅、佐多徹太郎:経鼻粘膜投与型インフルエンザワクチンのカニクイザルを用いた効果検討 第12回日本ワクチン学会学術集会(熊本)2008年11月
- 44) 高橋宣聖、阿戸 学、二宮 愛、長谷川秀樹、 小田切孝人、佐多徹太郎、田代眞人、小林 和夫: H5N1(NIBRG-14)ワクチンの感染 防御効果には、抗ヘマグルチニン抗体と抗 ノイラミニダーゼ抗体の両者が関与する 第12回日本ワクチン学会、熊本、2008 年 11月
- 45) 河野直子、板村繁之、小田切孝人、田代真 人、多田善一、城野洋一郎、池田富夫、五 反田亨:新型インフルエンザワクチンの効 果判定の指標としての抗体価測定法(HI 試験及び中和試験)の再現性と感度の比較 第12回日本ワクチン学会、熊本、2008年 11月
- 46) 小田切孝人: 新型インフルエンザワクチン第12回日本ワクチン学会、熊本、2008年11月
- 47) 岡松正敏、迫田義博、吉田裕美、田中智久、 津田祥美、磯田典和、中山絵里、苫米地大 輔、松野啓太、梅村孝司、高田礼人、<u>喜田</u> <u>宏</u>:2008年北海道で発見された斃死オオ ハクチョウから分離したH5N1高病原性 鳥インフルエンザウイルスの性状 第146 回日本獣医学会学術集会(2008年9月、宮 崎)
- 48) 小田切孝人: 新型インフルエンザ診断検査 対応方針案について 平成 20 年度稀少感 染症診断技術研修会、東京、2009 年 2 月
- 49) 相内 章、一戸猛志、田村愼一、倉田 毅、 佐多徹太郎、<u>長谷川秀樹</u>: 経鼻インフルエ ンザワクチンにおける **Zymosan** 添加によ

- るアジュバント活性の亢進 第13回日本 ワクチン学会学術集会(札幌)2009年9 月
- 50) 長谷川秀樹、相内 章、網 康至、永田典 代、田村愼一、谷本武史、真鍋貞夫、石川 豊数、宮崎 隆、小田切孝人、田代眞人、 倉田 毅、佐多徹太郎:経鼻粘膜投与型イ ンフルエンザワクチンの剤形と効果検討 第13回日本ワクチン学会学術集会(札幌) 2009年9月
- 51) 野村直樹、迫田義博、岡松正敏、曽田公輔、 <u>喜田 宏</u>: H9 インフルエンザウイルスワク チン候補株選抜のための遺伝子と抗原性 解析 第 13 回日本ワクチン学会学術集会 (2009 年、札幌)
- 52) 相内 章、伊藤 良、岸田典子、小渕正次、 高下恵美、小田切孝人、千葉 丈、田村愼 一、倉田 毅、佐多徹太郎、田代眞人、長 谷川秀樹:経鼻インフルエンザワクチンの 新型インフルエンザウイルスに対する交 叉防御能の検討 第 57 回日本ウイルス学 会学術集会(東京) 2009 年 10 月
- 53) 岸田典子、小渕正次、高下恵美、徐 紅、 氏家 誠、永田典代、岩田奈緒子、相内 章、 長谷川秀樹、田代眞人、齋藤玲子、鈴木 宏、 池松秀之、小田切孝人:季節性インフルエ ンザワクチンにより誘導される中和抗体 の新型インフルエンザウイルスに対する 交差反応性および新型インフルエンザウ イルスの性状 第 57 回日本ウイルス学会 学術集会(東京) 2009 年 10 月
- 54) 長谷川秀樹、相内 章、永田典代、岩田奈 緒子、網 康至、小渕正次、岸田典子、小 田切孝人、佐多徹太郎、田代眞人:新型イ ンフルエンザ H1N1 のフェレットにおけ る病原性の検討 第 57 回日本ウイルス学 会学術集会(東京) 2009 年 10 月
- 55) 白倉雅之、信澤枝里、田代眞人: リバース ジェネティクス(RG)法による新型インフ ルエンザワクチン製造株の作成 第 57 回 日本ウイルス学会学術集会、東京、2009 年 10 月

- 56) 原田勇一、高橋 仁、佐藤佳代子、信澤枝 里、河野直子、板村繁之、田代眞人、奥野 良信、佐々木学、庵原俊昭、小田切孝人: 沈降 H5N1 インフルエンザワクチン接種 者の野生型ウイルス株及び弱毒ワクチン 株に対する抗体応答の評価 第57回日本 ウイルス学会学術集会、東京、2009年10 月
- 57) 長谷川秀樹、相内 章、永田典代、岩田奈 緒子、網 康至、小渕正次、岸田典子、小 田切孝人、佐多徹太郎、田代眞人:新型イ ンフルエンザ H1N1 のフェレットにおけ る病原性の検討 第 57 回日本ウイルス学 会学術集会、東京、2009 年 10 月
- 58) 相内 章、伊藤 良、岸田典子、小渕正次、 高下恵美、小田切孝人、千葉 丈、田村慎 一、倉田 毅、佐多徹太郎、田代眞人、長 谷川秀樹:経鼻インフルエンザワクチンの 新型インフルエンザウイルスに対する交 叉防御能の検討 第 57 回日本ウイルス学 会学術集会、東京、2009 年 10 月
- 59) 岸田典子、小渕正次、高下恵美、徐 紅、 氏家誠、永田典代、岩田奈織子、相内 章、 長谷川秀樹、田代眞人、齋藤玲子、鈴木 宏、 池松秀之、小田切孝人:季節性インフルエ ンザワクチンにより誘導される中和抗体 の新型インフルエンザウイルスに対する 交差反応性および新型インフルエンザウ イルスの性状 第 57 回日本ウイルス学会 学術集会、東京、2009 年 10 月
- 60) 影山 努、中内美名、田代眞人:新型インフルエンザウイルス(H1N1)核酸検出法の構築 第57回日本ウイルス学会学術集会、東京、2009年10月
- 61) 小渕正次、氏家 誠、岸田典子、徐 紅、 高下恵美、伊東玲子、松浦純子、菅原裕美、 安樂茜、江島美穂、田代眞人、小田切孝人: 2008/09 シーズンの季節性インフルエン ザウイルス流行株と平成 21 年度のワクチ ン株 第 57 回日本ウイルス学会学術集会、 東京、2009 年 10 月
- 62) 氏家 誠、島袋 梢、安樂 茜、江島美穂、

小渕正次、岸田典子、徐 紅、高下恵美、伊東玲子、松浦純子、菅原裕美、田代眞人、 堀川博司、加藤裕美子、小口晃央、山崎秀司、藤田信之、小田切孝人:2008/09シーズンにおけるインフルエンザ(A/H1N1)オセルタミビル耐性株(H275Y*)の国内発生状況 第57回日本ウイルス学会学術集会、東京、2009年10月

- 63) 岡松正敏, 山本直樹, 遠藤真由美, 迫田義博, 喜田宏: A/2009 (H1N1)インフルエンザウイルスに対するワクチン候補株の選抜 第57回日本ウイルス学会学術集会(2009年、東京)
- 64) 山本直樹、佐々木崇、岡松正敏、迫田義博、 林志鋒、坂元隆一、西條加須江、国米則秀、 <u>喜田 宏</u>:不活化鳥インフルエンザVac-1 (H5N1)ワクチンは2008年に野鳥から分離 された高病原性鳥インフルエンザウイル スによる鶏の感染発症を予防した 第57 回日本ウイルス学会学術集会 (2009年、 東京)
- 65) 曽田公輔, 浅倉真吾, 岡松正敏, 迫田義博, <u>喜田 宏</u>: H9N2インフルエンザウイルス はニワトリに対する病原性を獲得する か? 第57回日本ウイルス学会学術集会 (2009年、東京)
- 66) 野村直樹、迫田義博、岡松正敏、曽田公輔、 <u>喜田 宏</u>: H9インフルエンザウイルスワク チン候補株選抜のための遺伝子と抗原性 解析 第57回日本ウイルス学会学術集会 (2009年、東京)
- 67) 栗林沙弥、田中智久、迫田義博、坂部沙織、 磯田典和、津田祥美、岡松正敏、梅村孝司、 <u>喜田 宏</u>: H7高病原性鳥インフルエンザウ イルスのニワトリに対する病原性の解析 第57回日本ウイルス学会学術集会(2009 年、東京)
- 68) 本島昌幸、岡松正敏、浅倉真吾、伊藤美加、 前田友起子、福田奈穂、R. Sodnomdarjaa、 迫田義博、<u>喜田 宏</u>:近年流行を起こして いるH3N8馬インフルエンザウイルスの 遺伝子と抗原性の解析 第57回日本ウイ

ルス学会学術集会(2009年、東京)

- H. 知的財産権の出願・登録状況
- 1. 特許取得(出願)
 - 特許公開2005-97267「粘膜免疫誘導アジュバントを含む新規ワクチン」
 - 2) 特許公開2009-242367 「混合免疫賦活剤を含む新規ワクチン」
- 2. 実用新案登録なし

Ⅱ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書	籍	名	出版社名	出版地	出版年	ページ
喜田 宏	パンデミックインフ ルエンザと鳥インフ ルエンザの関係	鈴木宏、 松本慶蔵 編	ンサ	⁄ フル デの最 ؤ Q& 9	新	医薬ジャーナル社	日本	2009	27-28

雑 誌

雜 誌					
発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
©Ichinohe T, Tamura S, Kawaguchi A, Ninomiya A, Imai M, Itamura S, Odagiri T, Tashiro M, Takahashi H, Sawa H, Mitchell WM, Strayer DR, Carter WA, Chiba J, Kurata T, Sata T, Hasegawa H	Cross-protection against H5N1 influenza virus infection is afforded by intranasal inoculation with seasonal trivalent inactivated influenza vaccine.	J Infect Dis	196(9) Epub 2007 Oct 5	1313-20	2007
©Ichinohe T, Kawaguchi A, Tamura S, Takahashi H, Sawa H, Ninomiya A, Imai M, Itamura S, Odagiri T, Tashiro M, Chiba J, Sata T, Kurata T, Hasegawa H	Intranasal immunization with H5N1 vaccine plus Poly I:Poly C12U, a Toll-like receptor agonist, protects mice against homologous and heterologous virus challenge.	Microbes Infect	9(11) Epub 2007 Jul 1	1333-40	2007
©Ichinohe T, Nagata N, Strong P, Tamura S, Takahashi H, Ninomiya A,	Prophylactic effects of chitin microparticles on highly pathogenic H5N1 influenza virus.	J Med Virol	79(6)	811-9	2007

Imai M, Odagiri T, Tashiro M, Sawa H, Chiba J, Kurata T, Sata T, Hasegawa H					
O <u>Hasegawa</u> <u>H</u> , Ichinohe T, Tamura S, Kurata T	Development of a mucosal vaccine for influenza viruses: preparation for a potential influenza pandemic.	Expert Rev Vaccines	6(2)	193-201	2007
Nagata N, Iwata N, Hasegawa H, Fukushi S, Harashima A, Sato Y, Saijo M, Taguchi F, Morikawa S, Sata T	Mouse-passaged severe acute respiratory syndrome-associated coronavirus leads to lethal pulmonary edema and diffuse alveolar damage in adult but not young mice.	Am J Pathol	172(6)	1625-37	2008
OKamijuku H, Nagata Y, Jiang X, Ichinohe T, Tashiro T, Mori K, Taniguchi M, Hase K, Ohno H, Shimaoka T, Yonehara S, Odagiri T, Tashiro M, Sata T, Hasegawa H*, Seino KI	Mechanism of NKT cell activation by intranasal coadministration of alpha-galactosylceramide, which can induce cross-protection against influenza viruses.	Mucosal Immunol	1(3) (Epub 2008 Mar 5) *corresponding author	208-18	2008
OIchinohe T, Iwasaki A, <u>Hasegawa H</u>	Innate sensors of influenza virus: clues to developing better intranasal vaccines.	Expert Rev Vaccines	7(9)	1435-45	2008
OHasegawa H, Ichinohe T, Ainai A, Tamura S, Kurata T	Development of an inactivated mucosal vaccine for H5N1 influenza virus.	Ther Clin Risk Manag	5(1)	125-32	2009
Takahashi Y, <u>Hasegawa H,</u> Hara Y, Ato M, Ninomiya A,	Protective immunity afforded by H5N1 (NIBRG-14)-inactivated vaccine requires both	J Infect Dis	199(11)	1629-37	2009

Takagi H, Odagiri T, Sata T, Tashiro M, Kobayashi K.	antibodies against hemagglutinin and neuraminidase in mice.				
OIchinohe T, Ainai A, Tashiro M, Sata T, Hasegawa H	PolyI:polyC12U adjuvant-combined intranasal vaccine protects mice against highly pathogenic H5N1 influenza virus variants.	Vaccine	27(45)	6276-9	2009
OIchinohe T, Ainai A, Nakamura T, Akiyama Y, Maeyama J, Odagiri T, Tashiro M, Takahashi H, Sawa H, Tamura S, Chiba J, Kurata T, Sata T, Hasegawa H	Induction of cross-protective immunity against influenza A virus H5N1 by intranasal vaccine with extracts of mushroom mycelia.	J Med Virol	82	128-137	2010
OAinai A, Ichinohe T, Tamura S, Kurata T, Sata T, Tashiro M, Hasegawa H	Zymosan enhances the mucosal adjuvant activity of Poly(I:C) in a nasal influenza vaccine.	J Med Virol	82(3)	476-84	2010
Tamura S, <u>Hasegawa H,</u> Kurata T	Estimation of the effective doses of nasal-inactivated influenza vaccine in humans from mouse-model experiments.	Jpn J Infect Dis	63(1)	8-15	2010
Nakajima N, Hata S, Sato Y, Tobiume M, Katano H, Kaneko K, Nagata N, Kataoka M, Ainai A, Hasegawa H, Tashiro M, Kuroda M, Odai T, Urasawa N,	The First Autopsy Case of Pandemic Influenza (A/H1N1pdm) Virus Infection in Japan: Detection of a High Copy Number of the Virus in Type II Alveolar Epithelial Cells by Pathological and Virological Examination.	Jpn J Infect Dis	63(1)	67-71	2010

Ogino T, Hanaoka H, Watanabe M, Sata T					
Takiyama A, Wang L, Tanino M, Kimura T, Kawagishi N, Kunieda Y, Katano H, Nakajima N, Hasegawa H, Takagi T, Nishihara H, Sata T, Tanaka S	Sudden Death of a Patient with Pandemic Influenza (A/H1N1pdm) Virus Infection by Acute Respiratory Distress Syndrome.	Jpn J Infect Dis	63(1)	72-4	2010
Fujii K et al.	Serological evidence of influenza A virus infection in Kuril harbor seals (Phoca vitulina stejnegeri) of Hokkaido, Japan.	J Vet Med Sci	69	259-63	2007
Guo CT et al.	The quail and chicken intestine have sialyl-galactose sugar chains responsible for the binding of influenza A viruses to human type receptors.	Glycobiology	17	713-24	2007
Ozaki H et al.	Extensive accumulation of influenza virus NS1 protein in the nuclei causes effective viral growth in vero cells.	Microbiol Immunol	51	577-80	2007
Takeda S et al	Detection of influenza virus hemagglutinin with randomly immobilized anti-hemagglutinin antibody on a carbon nanotube sensor.	J Nanosci Nanotechnol	7	752-56	2007
Tsuda Y et al.	Development of an immunochromatographic kit for rapid diagnosis of H5 avian influenza virus infection.	Microbiol Immunol	51	903-7	2007
喜田 宏	新型インフルエンザの発生の 危機をいかに防ぐか	北海道公衆衛 生学雑誌	20	15-23	2007
磯田 典和 <u>喜田 宏</u>	鳥インフルエンザに対するワ クチンの開発	月刊 PHARM STAGE	7	84.7	2007

<u>喜田 宏</u>	鳥とヒトのインフルエンザワ クチン株ライブラリー	ブレインテク ノニュース	123	21.5	2007
<u>喜田 宏</u>	特集 進歩する感染症対策の 現状-日本と世界 インフル エンザの過去, 現在, 未来	臨床と 微生物	34	395-401	2007
Isoda N et al.	Potency of an inactivated avian influenza vaccine prepared from a non-pathogenic H5N1 reassortant virus generated between isolates from migratory ducks in Asia.	Arch Virol	153	1685-92	2008
Itoh Y et al.	A vaccine prepared from a non-pathogenic H5N1 avian influenza virus strain confers protective immunity against highly pathogenic avian influenza virus infection in cynomolgus macaques.	Vaccine	26	562-72	2008
Kishida N et al.	H2N5 influenza virus isolates from terns in Australia: genetic reassortants between those of the Eurasian and American lineages.	Virus Genes	37	16-21	2008
Manzoor R et al.	Phylogenic analysis of the M genes of influenza viruses isolated from free-flying water birds from their Northern Territory to Hokkaido, Japan.	Virus Genes	37	144-52	2008
Manzoor R et al.	Development of a pen-site test kit for the rapid diagnosis of H7 highly pathogenic avian influenza.	J Vet Med Sci	70	557-62	2008
Okamatsu M et al.	Antigenic structure of the hemagglutinin of H9N2 influenza viruses.	Arch Virol	153	2189-95	2008
Sakabe S et al.	A vaccine prepared from a non-pathogenic H7N7 virus isolated from natural reservoir conferred protective immunity against the challenge with lethal dose of highly pathogenic avian influenza virus in chickens.	Vaccine	26	2127-34	2008
Sawai T et al.	Induction of cytotoxic T-lymphocyte and antibody responses against highly	Immunology	124	155-65	2008

	pathogenic avian influenza virus infection in mice by inoculation of a pathogenic H5N1 influenza virus particles inactivated with formalin.				
Soda K et al.	Antigenic and genetic analysis of H5 influenza viruses isolated from water birds for the purpose of vaccine use.	Arch Virol	153	2041-48	2008
Soda K et al.	Development of vaccine strains of H5 and H7 influenza viruses.	Jpn J Vet Res	55	93-8	2008
Kida H	Ecology of Influenza Viruses in Nature, Birds, and Humans.	Global Environmen tal Research	12 (1)	9-14	2008
Sasaki T et al.	Long lasting immunity in chickens induced by a single shot of influenza vaccine prepared from inactivated non-pathogenic H5N1 virus particles against challenge with a highly pathogenic avian influenza virus.	Vaccine	27	5174-77	2009
Simulundu E et al.	Characterization of H3N6 avian influenza virus isolated from a wild white pelican in Zambia.	Arch Virol	154	1517·22	2009
Tsuda Y et al.	Factors responsible for plaque formation of A/duck/Siberia/272/1998 (H13N6) influenza virus on MDCK cells.	Virus Res	140	194-8	2009
Yoshida R et al.	Cross-protective potential of anovel monoclonal antibody directed against antigenic site B of the hemagglutinin of influenza A viruses.	PLoS Pathogen	5	e1000350	2009
<u>喜田 宏</u>	鳥,ブタ,そしてパンデミックイン フルエンザにいかに対応すべき か	INFECTION FRONT	17	16-8	2009
<u>喜田 宏</u>	鳥, ブタ, そしてパンデミック インフルエンザ:実はすべてイ ンフルエンザ	月刊薬事	51	51-5	2009
岡松正敏、 喜田 宏	A型インフルエンザウイルス と動物社会	治療学	43	14-6	2009
磯田典和、	H5 亜型ウイルスに対する鳥イ	化学と生物	47	302-4	2009

迫田義博、 喜田 宏	ンフルエンザワクチンの開発				
Shirato K, Nishimura H, Saijo M, Okamoto M, Noda M, Tashiro M, Taguchi F	Diagnosis of human respiratory syncytial virus infection using reverse transcriptase loop mediated isothermal amplification.	J Virol Methods	139	78-84	2007
Okada M, Okuno Y, Hashimoto S, Kita Y Kanamaru N, Nishida Y, Tsunai Y, Inoue R, Nakatani H, Fukamizu R, Namie N, Yamada J, Takao K, Asai A, Asaki R, Kase T, Takemoto Y, Yoshida S, Peiris JSM, Chen P-J, Yamamoto N, Nomura N, Ishida I, Morikawa S, Tashiro M, Sakatani M	Development of vaccines and passive immunotherapy against SARS corona virus using SCID-PBL/hu mouse models.	Vaccine	25	3038-40	2007
Ninomiya A, Imai M, <u>Tashiro M,</u> Odagiri T	Inactivated influenza H5N1 whole-virus vaccine with aluminum adjuvant induces homologous and heterologous protective immunities against lethal challenge with highly pathogenic H5N1 avian influenza viruses in a mouse model.	Vaccine		3554-60	2007
Kato A, Kiyotani K, Kubota T, Yoshida T, Tashiro M, Nagai Y	Importance of anti-Interferon capacity of the Sendai virus C protein for pathogenicity in mice.	J Virol	81	3264-71	2007

Imai M, Ninomiya A, Minekawa H, Nomoto T, Ishizaki T, Tu PV, Tien NTK, Tashiro M, Odagiri T	Rapid diagnosis of H5N1 avian influenza virus infection by newly developed influenza H5 hemagglutinin gene-specific loop-mediated isothermal amplification method.	J Virol Methods	141	173-80	2007
Russell CA, Jones TC, Barr IG, Cox NJ, Gregory V, Gust ID, Hampson AW, Hay AJ, Hurt AC, de Jong JC, Kelso A, Klimov AI, Kageyama T, Komadina N, Lapedes AS, Lin YP, Mosterin A, Obuchi M, Odagiri T, Osterhaus ADME, Rimmelzwaan GF, Shaw MW, Skepner E, Stohr K, Tashiro M, Fouchier RAM, Smith DJ	The global circulation of seasonal influenza A(H3N2) viruses.	Science	320	340-6	2008
Ogata T, Yamazaki Y, Okabe N, Nakamura Y, Tashiro M, Nagata N, Itamura S, Yasui Y, Nakashima K, Doi M, Izumi Y, Fujieda T, Yamato S, Kawada Y	H5N2 influenza infection to human in Japan and association of seasonal influenza vaccination with positive H5N2 neutralizing antibody.	J Epidemiol	18	160-6	2008

Kubota T, Matuoka M, Chang T H, Tailor P, Sasaki T, Tashiro M, Kato A, Ozato K	Virus infection triggers SUMOylation of IRF3 and IRF7, leading to the negative regulation of type 1 interferon gene expression.	J Biol Chem	283	25660-70	2008
Russell CA, Jones TC, Barr IG, Cox NJ, Gregory V, Gust ID, Hampson AW, Hay AJ, Hurt AC, de Jong JC, Kelso A, Klimov AI, Kageyama T, Komadina N, Lapedes AS, Lin YP, Mosterin A, Obuchi M, Odagiri T, Osterhaus ADME, Rimmelzwaa GF, Shaw MW, Skepner E, Stohr K, Tashiro M, Fouchier RAM, Smith DJ	Influenza vaccine strain selection and recent studies on the global migration of seasonal influenza viruses.	Vaccine	26	31.4	2008
Makizumi K, Kimachi K, Fukada K, Nishimura T, Kudo Y, Goto S, Odagiri T, Tashiro M, Kino Y	Timely production of A/Fujian-like influenza vaccine matching the 2003–2004 epidemic strain may have been possible using Madin–Darby canine kidney cells.	Vaccine	26	6852-8	2008
Nicoll A, Mori K, <u>Tashiro M</u>	Winston Churchill and the Russian Pandemic of 1890-91.	Br Med J	337	2890	2008
Kawakami C, Obuchi M,	Outbreaks of oseltamivir-resistant	Jpn J Infect Dis	62	83-6	2009

Saikusa M, Noguchi Y, Ujike M, Odagiri T, <u>Tashiro M</u>	Influenza A/H1N1 virus in an elementary school and a family in Yokohama City, Japan, during the 2007-2008 Influenza Season.				
Takahashi Y, Hasegawa H, Hara Y, Ato N, Ninomiya Ai, Takagi H, Odagiri T, Sata T, Tashiro M, Kobayashi M	Protective immunity afforded by H5N1 (NIBRG-14) - inactivated vaccine requires both antibodies against hemagglutinin and neuraminidase in mice.	J Infect Dis	199	1629-37	2009
Wada T, Morishima T, Okumura A, Tashiro M, Hosoya M, Shiomi M, Okuno Y	Differences in clinical manifestations of influenza associated encephalopathy by age.	Microbiol Immunol	53	83-8	2009
Ikeno D, Kimachi K, Kudo Y, Goto S, Itamura S, Odagiri T, Tashiro M, Kino Y	The prime boost vaccination of H5N1 heterologous strains in a mouse model.	Vaccine	27	3121-5	2009
Thongratsaku S, Songserm T, Poolkhet C, Kondo S, Yagi H, Hiramatsu H, Tashiro M, Okada H, Kato K, Suzuki Y	Determination of Nlinked sialyl-sugar chains in the lungs of domestic cats and dogs in Thailand susceptible to the highly pathogenic avian influenza virus (H5N1).	Open Glycoscience	2	28-36	2009
Tashiro M, McKimm Breschkin J, Saito T, Klimov A, Macken C, Zambon M, Hayden F	Surveillance for neuraminidase inhibitor-resistant influenza viruses in Japan, 1996-2007.	Antiviral Therapy	14	751-61	2009
WHO/OIE/FA O H5N1	Continuing progress towards a unified nomenclature for	Influenza and Other	3	59-62	2009

Evolution Working Group; Brown IH, Capua I, Cattoli G, Chen H, Cox N, Davis T, Donis RO, Fouchier RAM, Garten R, Guan Y, Kawaoka Y, Mackenzie J, McCauley J, Mumford E, Olsen C, Perdue M, Russell CA, Smith C, Smith D, Smith GJD, Shu Y, Tashiro M, Vijaykrishna D, Webster R	the highly pathogenic H5N1 avian influenza viruses: divergence of clade 2.2 viruses.	Respiratory Viruses			
Sriwilaijaroen N, Wilairat P, Hiramatsu H, Takahashi T, Suzuki T, Ito M, Ito Y, Tashiro M, Suzuki Y	Mechanisms of the action of povidone iodine against human and avian influenza A viruses: its effects on hemagglutination and sialidase activities.	Virology Journal	6	124	2009
Bertozzi S, Kelso A, Tashiro M, Savy V, Farrar J, Osterholm M, Jameel S, Muller CP	Pandemic flu: from front lines.	Nature	461	20-1	2009
Barr IG, McCauley J, Cox N, Daniel R, Engelhardt OG, Fukuda K, Grohmann G,	Committee of the World Health Organization Consultation on Northern Hemisphere Influenza Vaccine Composition for 2009–2010 Epidemiological, antigenic and genetic characteristics of	Vaccine	28	1156–67	2010

Hay A, Kelso A, Klimov A, Odagiri T, Smith D, Russell C, Tashiro M, Webby R, Wood J, Ye Z, Zhang W	seasonal influenza A(H1N1),A(H3N2) and B influenza viruses: Basis for the WHO recommendation on the composition of influenza vaccines for use in the 2009–2010 Northern Hemisphere season.				
谷本武史	経鼻吸収型インフルエンザワ クチンの開発	Drug Delivery System	25(1)	15-21	2010
Wada H, Yasuda T, Miura I, Watabe K, Sawa C, Kamijuku H, Kojo S, Taniguchi M, Nishino I, Wakana S, Yoshida H, Seino K	Establishment of an improved mouse model for infantile neuroaxonal dystrophy bearing a point mutation in <i>Pla2g6</i> which shows early disease onset.	Am J Pathol	175	2257-63	2009

Ⅲ. 研究成果の刊行物・別刷

Cross-Protection against H5N1 Influenza Virus Infection Is Afforded by Intranasal Inoculation with Seasonal Trivalent Inactivated Influenza Vaccine

Takeshi Ichinohe,^{1,3} Shin-ichi Tamura,¹ Akira Kawaguchi,^{1,3,4} Ai Ninomiya,² Masaki Imai,² Shigeyuki Itamura,² Takato Odagiri,² Masato Tashiro,² Hidehiro Takahashi,¹ Hirofumi Sawa,⁴ William M. Mitchell,⁵ David R. Strayer,⁶ William A. Carter,⁶ Joe Chiba,³ Takeshi Kurata,¹ Tetsutaro Sata,¹ and Hideki Hasegawa¹

Departments of 'Pathology and 'Virology III, National Institute of Infectious Diseases, Musashimurayama-shi, Tokyo, 'Department of Biological Science and Technology, Tokyo University of Science, Noda-shi, Chiba, and 'Department of Molecular Pathobiology and 21st Century COE Program for Zoonosis Control, Hokkaido University Research Center for Zoonosis Control, Kita-ku, Sapporo, Japan; 'Vanderbilt University Medical Center, Nashville, Tennessee; 'Hemisperx Biopharma, Inc., Philadelphia, Pennsylvania

Background. Avian H5N1 influenza A virus is an emerging pathogen with the potential to cause substantial human morbidity and mortality. We evaluated the ability of currently licensed seasonal influenza vaccine to confer cross-protection against highly pathogenic H5N1 influenza virus in mice.

Methods. BALB/c mice were inoculated 3 times, either intranasally or subcutaneously, with the trivalent inactivated influenza vaccine licensed in Japan for the 2005–2006 season. The vaccine included A/NewCaledonia/ 20/99 (H1N1), A/NewYork/55/2004 (H3N2), and B/Shanghai/361/2002 viral strains and was administered together with poly(I):poly(C_{12} U) (Ampligen) as an adjuvant. At 14 days after the final inoculation, the inoculated mice were challenged with either the A/HongKong/483/97, the A/Vietnam/1194/04, or the A/Indonesia/6/05 strain of H5N1 influenza virus.

Results. Compared with noninoculated mice, those inoculated intranasally manifested cross-reactivity of mucosal IgA and serum IgG with H5N1 virus, as well as both a reduced H5N1 virus titer in nasal-wash samples and increased survival, after challenge with H5N1 virus. Subcutaneous inoculation did not induce a cross-reactive IgA response and did not afford protection against H5N1 viral infection.

Conclusions. Intranasal inoculation with annual influenza vaccine plus the Toll-like receptor–3 agonist, poly(I): poly(C_{12} U), may overcome the problem of a limited supply of H5N1 virus vaccine by providing cross-protective mucosal immunity against H5N1 viruses with pandemic potential.

In 1997, people in the Hong Kong area became infected with a highly pathogenic avian influenza A virus, H5N1, apparently before that virus adapted to a mammalian species [1–3]. Of the 18 patients who developed respiratory disease, 3 died. The World Health Organi-

zation has reported 168 deaths for 278 cases of laboratory-confirmed infection with H5N1 avian influenza, in Southeast Asia, Europe, and Africa, between January 2003 and March 2007. In some instances, human-to-human transmission of the H5N1 virus appears to have occurred [4], suggesting that this virus has the potential to cause an influenza pandemic [5]. Furthermore, an H5N1 virus (A/Hanoi/30408/2005) resistant to oseltamivir was isolated from a Vietnamese girl [6], and H5N1 viruses isolated from individuals in Hong Kong in 1997 were found to be resistant to interferon and tumor-necrosis factor— α [7]. The development of anti-H5N1 vaccines is thus a priority in efforts to prevent a human pandemic of H5N1 influenza.

We recently have shown that the combination of poly(I:C), a synthetic double-stranded RNA, and intranasal vaccine (split-product virus vaccine of either

Received 25 December 2006; accepted 24 April 2007; electronically published 5 October 2007

Potential conflicts of interest: none reported.

Financial support: Japan Society for the Promotion of Science (grant-in-aid 07205 to T.I.); Ministry of Health, Labor and Welfare (grant H19 trans 002 to H.H.); Research on Health Sciences Focusing on Drug Innovation (grant KH51045 to H.H.).

Reprints or correspondence: Dr. Hideki Hasegawa, Dept. of Pathology, National Institute of Infectious Diseases, 4-7-1 Gakuen, Musashimurayama-shi, Tokyo 208-0011, Japan (hasegawa@nih.qo.jp).

The Journal of Infectious Diseases 2007; 196:1313-20

© 2007 by the Infectious Diseases Society of America. All rights reserved. 0022-1899/2007/19609-0009\$15.00

DOI: 10.1086/521304

strain A/PuertoRico/8/34 or strain A/HongKong/156/97) protects mice against infection with avirulent A/PuertoRico/8 or highly pathogenic H5N1 (A/HongKong/483/97) influenza virus [8, 9]. poly(I:C), however, has a poor safety profile. poly(I): poly(C₁₂U) (Ampligen) is structurally similar to doublestranded RNA and has exhibited a safe profile in double-blind placebo-controlled phase 2/3 clinical trials [10-12], in which it has been administered, in >75,000 intravenous doses (average dose, 400 mg), to humans. Our preliminary observations indicated that, as an adjuvant, Ampligen also has a protective effect against A/PuertoRico/8 and H5N1 influenza viruses. Furthermore, intranasal inoculation with either a formalin-inactivated H5N1 vaccine or an adenovirus vector-based influenza vaccine protected mice against lethal and heterologous H5N1 virus [13-15]. In 2003, Takada et al. [16] reported that intranasal inoculation with a formalin-inactivated virus vaccine (strain H1N1, H1N2, H3N1, H3N2, H5N4, or H9N2) at high doses protected mice against infection with heterologous A/ HongKong/483/97 (H5N1) virus. These findings led us to examine whether intranasal inoculation with both Ampligen and a trivalent inactivated influenza vaccine—A/NewCaledonia/20/ 99 (H1N1), A/NewYork/55/2004 (H3N2), and B/Shanghai/361/ 2002—prepared for the 2005-2006 season protected mice against challenge with lethal and heterologous H5N1 virus.

In the present report, we demonstrate that intranasal inoculation with the current trivalent inactivated influenza vaccine combined with Ampligen as a mucosal adjuvant elicited protective immunity against both an H5N1 strain (A/HongKong/483/97) isolated in 1997 and more-recent H5N1 isolates (A/Vietnam/1194/04 and A/Indonesia/6/05) and that it significantly improved the survival rate after challenge with H5N1 virus. The results of our study suggest that the cross-protective immunity induced by such vaccination is mediated by a mucosal immune response, most likely by secretory IgA antibodies specific for influenza-virus proteins.

MATERIALS AND METHODS

Mice. Female BALB/c mice 6–8 weeks old were purchased from Japan SLC and were kept under specific-pathogen–free conditions.

Viruses. The wild-type strains A/HongKong/483/97 (H5N1), A/Vietnam/1194/04 (H5N1), and A/Indonesia/6/2005 (H5N1) were used in the present study. The A/HongKong/483/97 virus [17], isolated from patient with fatal influenza, was prepared in Mardin-Darby canine kidney (MDCK) cells without any special step for adaptation to mice. The Vietnam/1194/04 virus and the Indonesia/6/05 virus were propagated in 10-day–old embryonated chicken eggs, for 2 days at 37°C. These viruses were stored at -80°C, and virus titers were quantified by plaque assay using MDCK cells.

Vaccine and adjuvant. The trivalent inactivated influenza vaccine (split-product virus vaccines, hemagglutinin [HA] vaccine) prepared for the 2005–2006 season and including A/ NewCaledonia/20/99 (H1N1), A/NewYork/55/2004 (H3N2), and B/Shanghai/361/2002 was purchased from Kitasato Institute (Saitama, Japan). poly(I):poly(C₁₂U) (Ampligen) was provided by Hemispherx Biopharma.

Inoculation and viral challenge. Mice were anesthetized with diethyl ether and were inoculated 3 times (at consecutive intervals of 3 and 2 weeks), either intranasally or subcutaneously, with 1 μ g of the trivalent vaccine (0.33 μ g of each vaccine strain) with or without 10 µg of Ampligen. According to a modification of a procedure described elsewhere [18-20], each mouse (5-10 mice/group) was anesthetized and then subjected to infection by inoculation with 4 μ L of H5N1 virus suspension (1000 pfu) in PBS into both nostrils (2 µL/nostril) at 14 days after the final inoculation (1000 pfu corresponds to ~63 times the 50% mouse lethal dose for the A/Vietnam H5N1 strain in the 10-µL infection model). All animal experiments were performed in accordance with the Guides for Animal Experiments Performed at the National Institute of Infectious Diseases (NIID) and were approved by the Animal Care and Use Committee of NIID; infection with H5N1 virus was performed under Biosafety Level 3 containment and was approved by NIID.

Measurement of virus titers and anti-vaccine antibodies. From mice euthanized while anesthetized with chloroform, nasal-wash and serum samples were collected for measurement of virus titers and vaccine-specific antibodies. ELISA for determination of the levels of specific IgA and IgG antibodies was performed as described elsewhere [19], with plates coated either with the trivalent vaccine (split-product virus vaccines, HA vaccine) used for vaccination (table 1) or with a formalininactivated H5N1 virus vaccine (NIBRG14) [21] derived from a recombinant avirulent avian virus that contains modified HA and neuraminidase (NA) from the highly pathogenic avian influenza strain A/Vietnam/1194/04 and other viral proteins from influenza virus A/PuertoRico/8/34 (H1N1) (table 2). Before the hemagglutination inhibition (HI) tests were performed, receptor-destroying enzyme II (Denka Seiken) was added to the red blood cell-treated serum samples overnight at 37°C, to inactivate nonspecific hemagglutination inhibitors, followed by incubation for 1 h at 56°C, to inactivate receptor-destroying enzyme. HI tests were performed according to the microtiter method of Sever [22]. Virus titers were measured by a plaque assay using MDCK cells, as described elsewhere [23, 24].

Antigen-specific T cell response. Antigen-specific T cell responses were measured as described elsewhere [25]. The spleen was removed from mice 10 days after the third vaccination. T cells were purified from a single-cell suspension by depletion of CD11b⁺, CD45R⁺, DX5⁺, and Ter-119⁺ cells, by use of a

Table 1. Titers of antibodies specific for the trivalent vaccine.

Vaccine				End point-dilution titer, means ± SEs ^a		
Trivalent vaccine, µg	Ampligen, μg	Route	Virus strain	Vaccine- specific IgA in nasal wash	Vaccine- specific IgG in serum	HI titer in serum ^b
1	10	in	A/NewCaledonia (H1N1)	64	12,800	20
			A/NewYork (H3N1)	64	$19,200 \pm 6400$	20
			B/Shanghai	32	19,200 ± 6400	10
1 .	•••	in	A/NewCaledonia (H1N1)	ND	ND	<10
	•		A/NewYork (H3N1)	ND	ND	<10
			B/Shanghai	ND	ND	<10
	10	in	A/NewCaledonia (H1N1)	ND	ND	<10
	•		A/NewYork (H3N1)	ND	ND	<10
			B/Shanghai	ND	ND	<10
1	10	sc	A/NewCaledonia (H1N1)	ND	204,800	320
			A/NewYork (H3N1)	ND	204,800	320
			B/Shanghai	ND	102,400	160
1		sc	A/NewCaledonia (H1N1)	ND	204,800	160
			A/NewYork (H3N1)	ND	204,800	160
			B/Shanghai	ND	204,800	160
	10	sc	A/NewCaledonia (H1N1)	ND	ND	<10
			A/NewYork (H3N1)	ND	ND	<10
			B/Shanghai	ND	ND	<10
	•••		A/NewCaledonia (H1N1)	ND	ND	<10
			A/NewYork (H3N1)	ND	ND	<10
			B/Shanghai	ND	ND	<10

NOTE. At 0, 3, and 5 weeks, mice were immunized with 1 μg of trivalent vaccine and 10 μg of Ampligen, as indicated. Nasal-wash and serum samples were collected 2 weeks after the final immunization. HI, hemagglutination inhibition; in, intranasal; ND, not detected; sc, subcutaneous.

magnetic cell-sorting system (Miltenyi Biotec). For preparation of antigen-presenting cells, splenocytes from normal BALB/c mice were depleted of CD90 (Thy1.2)-positive cells and were irradiated at 2000 cGy. Purified splenic T cells (1 \times 10⁵ cells/ well) were cultured for 4 days with irradiated antigen-presenting cells (5 \times 10⁵ cells/well) in the absence or presence of viral antigens (at concentrations of 0.1 μ g/mL and 1 μ g/mL). The concentration of interferon (IFN)- γ in culture supernatants was then measured by use of ELISA for the mouse cytokine (Biosource International). T cell proliferation was monitored by the addition of [3H]thymidine (18.5 kBq/well) (ICN Biomedicals) 8 h before the cells were harvested. The cells were harvested onto a 96-well microplate bonded with a GF/B filter (Packard Instruments). Incorporated radioactivity was calculated by a microplate scintillation counter (Packard Instruments). Data are means ± SDs of values from 2 independent experiments, each performed with T cells from 5 mice/group.

Statistics. All data are presented as means \pm SEs or means \pm SDs, and experimental groups were compared by use of

Student's t test for paired observations. P < .05 was considered to be statistically significant.

RESULTS

Ampligen's effects as a mucosal adjuvant for seasonal influenza vaccine. To evaluate the efficacy of Ampligen as a mucosal adjuvant for the trivalent inactivated influenza vaccine, we examined the IgA and IgG responses to each of the 3 component strains—A/NewCaledonia (H1N1), A/NewYork (H3N2), and B/Shanghai—in mice inoculated intranasally or subcutaneously with 1 μ g of the vaccine with or without 10 μ g of Ampligen. A high concentration of IgA antibodies to HA was apparent in the nasal-wash samples from mice inoculated intranasally with both the trivalent vaccine and Ampligen (table 1); in contrast, a mucosal IgA response was not observed either in mice inoculated intranasally with the trivalent vaccine without Ampligen or in mice inoculated subcutaneously with the trivalent vaccine with or without Ampligen. Compared with

^a Data are for 5 mice. These titers were achieved by diluting the samples until optical-density values reached background levels.

^b HI titers against homologous viruses in serum were measured at 2 weeks after the final immunization and are expressed as reciprocals of the highest dilution that completely inhibits hemagglutination of 4 hemagglutinin units of virus.